

東海メディカルプロダクツの創業者で会長の筒井宣政は、大動脈に挿入して心臓機能を一時的に補完するTABP（大動脈内バルーンポンピング）バルーンカテーテルを1989年に国内で初めて開発。さらに各種のバルーンカテーテルを次々に開発してきた。これらの功績が評価され、世界的な起業家表彰制度である「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」において、筒井は15年度日本代表に選ばれ

東海メディカルプロダクツ ①

作れないものを作る」と  
の思いを新たにした。

カテーテルは細いチューブ状の医療機器。血管内に挿入して先端部を患部に送り込み、切開なしで治療をするのに用いられる。バルーンカテーテルは先端に風船(バルーン)がついていて、血管や臓器の狭窄部を広げるのに使う。

筒井には、先天性の不治の心臓病を持ち23歳で亡くなつた次女の佳美が、

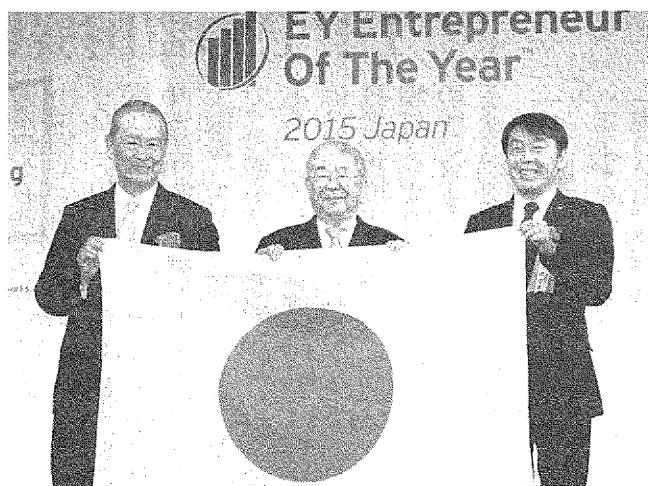
心臓の機能補完  
東海メディカルプロダ  
クツの創業者で会長の筒  
井宣政は、大動脈に挿入  
して心臓機能を一時的に  
補充するTIA-BP（大動

# 不撓不屈

大手が作れない製品を

同社が生産するバルーンカテーテルは約30種あれど、過去14回の日本代表に選ばれた。

エヌや、たこ焼きチエー、使われ利益率が高いのは、  
ンのホットランドなど東証一部に上場する急成長  
会社が名を連ねる。かた  
や同社の売上高は15年9  
ヶ月で34億円。しかし筒井と筒井は言い切る。  
れでも「利益を優先して  
は患者を助けられない」



「EYアントレプレナー・オブ・ザ・イヤー」の日本代表に選ばれた筒井宣政会長(中)

海外展開にも力

療するPEDバルーンカテーテルで、小児用に世界で最も外径が細いタイプを15年に実用化。生後2ヶ月の赤ちゃんの手術にも成功した。寸法を小さくするだけでは機能を保てず、同強度で材料をより薄く柔軟にできる成形技術まで開発した。現在は不採算だが、筒井は意に介していない。

荀子略

供給責任も重く受け止める。愛知県春日井市本社との近隣に加え、市田楽町更屋敷1485、05668・81・7954△社長＝筒井康弘氏△従業員＝190人△設立＝81年（昭56）10月△資本金＝8475万円△売上高＝34億円（15年9月期）△URL＝<http://tokaimedpro.co.jp>



# 不機 不屈

ふどうふくつ

を2008年に発売し  
た。

従来品は大小2管を重ねた構造で、外管に風船の拡張・収縮用の液を通して、内管に治療器具などを通す。オブティモは二重構造をとらず、液の通り道と治療器具の通路を並べて別に設けた。断面は外径と治療器具通路の内径の中心が異なる偏心構造。成形法も独自に開発し、高強度と扱いやすさを両立した。

## 強度と操作性両立

ガイドイングカテーテルは細い管状の医療機器。血管に挿入し、管内から治療器具などを送り込む。外径は血管への負荷が少ないよう小さく、内径は治療器具などを通しやすいよう大きいのが理想だ。

東海メディカルプロダクツ

クリ（愛知県春日井市）は、先端の風船を膨らませ血流を止めながら使うバルーン付ガイドイングカテーテルで内径が業界最大級の「オブティモ」

## 現場の「困った」に対応

手を出さない。中小の当社だから開発できた」と

製品開発部長の桑野孝志

は分析する。

「ドクターの意見をほど取り入れた」というきめ細かな対応力で使いやすさも追求した。現在、同市場は約10億円に拡大。オブティモは自社確定でシェア9割を誇る主力製品の一つになった。

心臓機能を補うIAB

## 主力製品に

# 改善意欲重視で組織拡大

開発当時のバルーン付ガイドイングカテーテルの国内市場規模は年間1億円。先行メーカーも1

P（大動脈内バルーンポンピング）バルーンカテーテルを89年に初めて開発した。腎臓透析患者など

産化した同社は、事業領域を心臓以外にも広げて血管形成術（PTA）バルーンカテーテルを1990年に開発部門に置き、全国

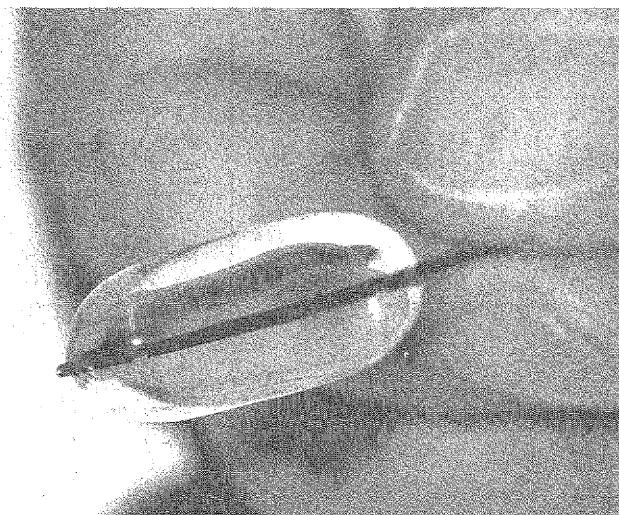
の医療機関や大学との共同研究に力を入れる。製造部門も強化していく。16年2月にはフイリピン・バタンガス州に同社初の海外工場を稼働した。当面は米医療機器メーカーへのOEM（相手先ブランド）用として社員30人でIABPバルーンカテーテルを組み立てた。海外で価格競争力を高めるのが狙いだ。

改

小児用に開発したPEDバルーンカテーテル

医療現場の「困った」という声にこたえるのが同社の身上だ。PTAバルーンカテーテルでは、バルーンが屈曲した形で膨らむ特殊タイプも実用化し、性能の高さで関係者を驚かせた。2月に入社後6年強の自動車部品メーカー出身者が、製造部門トップの執行役員に抜てきした。「改善への意欲を評価し、社歴は頼着しない」と社長の筒井康弘は説明。組織化を強調する。

（敬称略）



1月、46歳で東海メディカルプロダクツ（愛知県春日井市）創業者で現会長の義父、宣政から社長を引き継いだ。心臓機能を補完する医療機器の「ABP（大動脈内バルーンポンピング）バルーンカテーテル」を89年に初めで国産化し、医療の進歩に貢献してきた宣政の意志を継ぎつつ、会社の進化を期す。

## 東海メディカルプロダクツ④

1本目は海外強化だ。た。海外展開を本格化し、19年9月期には同10倍の10億円を目指す。

# 技術士

力評価 現地化に  
でも販売認証を得た。北米で新たな提携相手も探ししている。中計の2本目の柱として、血管内治療用という領域は守りつつ製品の拡充も進めしていく。得意のバルーンカテーテルで品種を増やしながら、金属製品を含むカテーテル以外の医療機器も充実させることで、輸入販売も加速する計画だ。

らのOEM調達も始めて  
いる。

中計3年目の15年9月

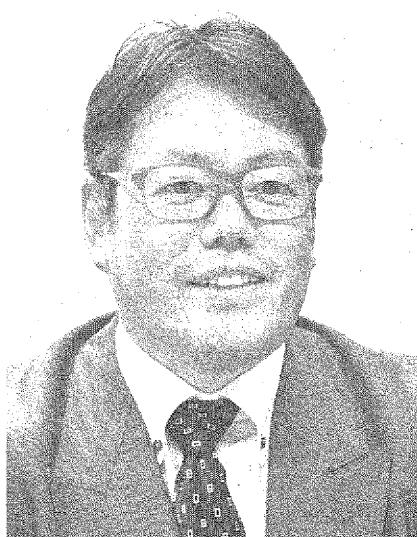
に弾み

期の売上高は34億円。医療機器は国・地域単位で制度が異なるため認可を得に予想以上の時間がかかり、思い通りには製品が発売できなかつた。  
「医療の世界で国際化はすなわち現地化。やつ

EDバルーンカテーテルの手術がモンゴルやベトナムでも成功するなど技術力への現地の評価には手応えも感じている。「世界で戦える会社にしたい」と康弘は宣言する。「一人でも多くの生命を救いたい」という創業の精神を世界に広げていく考えだ。

(この項おわり。名古屋編集委員・村国哲也が敬称略)

# 技術力評価 現地化に弾み



世界で戦える会社に…と説く筒井康弘社長。筒井宣政の意志を継ぎつつ会社の進化を期す

販売も手がけていく。年に数回出展する海外の医療機器の展示会などで、は莘美する。てみなければわからないことも多かつた」と康弘

情報収集中だ。15年に  
一方で世界最小径の小  
は虫医療機器メニカーか  
見同ナ弁夾管台奈用(?)

らのOEM調達も始めて  
いる。  
中計3年目の15年9月  
EDバルーンカテーテル  
の手術がモンゴルやベト  
ナムでも成功するなど、

技術力への現地の評価には手応えも感じている。「世界で戦える会社にしたい」と康弘は宣言する。

期の売上高は34億円。医療機器は国・地域単位で制度が異なるため認可取扱業の精神を世界に広げて命を救いたい」という創

かり、思い通りには製品  
得意に予想以上の時間がか  
いく考えだ。  
(敬称略)

が発売できなかつた。  
「医療の世界で国際化」 屋嶋集委員・村国哲也が  
はすまつう現地化。ふつ 日当ほんじ